

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 施設の理念については、各フロアに掲示し常に目に入るようにしている。全体会議でスタッフ全員で理念を読み上げている。 ケアについてはその人らしさを尊重し健やかに過ごせる様、ケア会議で話し合い統一のケアを心がけている。 	<p>理念を会議室や各フロアに掲示し来訪者に解るようにしている。家族に対しては理念と取り組み方針について説明をしている。日ごろのケアの中で常に理念を意識し、「笑顔で一日過ごし、笑顔で明るい挨拶をする」ことに気を付け取り組んでいる。理念や方針にそぐわない言動等が仮に職員に見られた場合には管理者、リーダーが個別に指導し軌道修正を図っている。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 自治会に加入し公民館行事で利用者の作品の出品及び参加している。 中学生の職場体験の受け入れ 保育園児、小学生との交流 地域ボランティアの方と月2回の交流を図っている。 	<p>自治会費を納め区の一員とし活動している。回覧板で行事を把握し、参加出来る行事については向かいしている。1ヶ月に1～2回行われる各種ボランティアによる行事について手作りの案内チラシを作成し近隣にポスティングしている。その結果、定期的に来訪されるようになった方もいる。地域の文化祭では利用者の作品が展示され、会場に行ける方は出掛け楽しんでいる。地域の保育園児との交流では絵を描いたりし、また、餅つき大会や運動会にも招待されている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の職場体験学習の受け入れや老人会の訪問を通して、認知症についての初歩的な資料を配布して理解を図っている 地域の公民館行事に参加し、作品を展示して理解を深めている。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 現在2か月に1回開催し、検討事項や勘案事項及び経過報告をしている。 参考意見を記録し今後の運営に活かしている。 	<p>利用者代表、家族代表、区長、民生委員、市担当部署や地域包括支援センターの職員などが出席し2ヶ月に1回開催している。ヒヤリハットの報告、行事連絡、区長からの連絡事項、意見交換等を行い、運営の向上に役立っている。また、議事録は全職員に回覧され内容を共有し、支援に活かしている。</p>	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 市主催の会議がある場合出席し情報を収集している。又介護認定申請は家族の依頼で代行し調査日には職員が利用者の生活の様子を伝えられている。 問題点や不明な点は、適宜市側担当者に相談している。 	<p>市への提出書類作成時には市介護保険課に相談している。介護認定の更新調査は市の調査員が来訪しホームにて行っている。市の敬老の日のお祝いについては利用者の節目の年「88歳」等を連絡し記念品を頂いている。市主催の研修会には積極的に参加している。</p>	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 拘束適正化指針を策定し「禁止の対象となる具体的な行為」をフロアに掲示し全員に徹底している。 拘束しない介護方針を契約書、重要事項説明書に記載、家族、利用者へ契約時伝えている。 29年11月に拘束ゼロを表明し職員の研修(年2回)を通じて共有している 	<p>身体拘束のないケアに取り組んでいる。昨年11月までミトン使用の利用者がいたが、現管理者に交代し拘束「ゼロ」を表明し、研修会を重ね支援の内容を変え、経過記録を取り、きめ細かく見回りを行うことなどの拘束のないケアに取り組んでいる。また、勉強会を年2回行うことで意識を高め、きめ細かな見守りが当たり前という認識が根付き、拘束のないケアに繋がっている。転倒によるリスク回避のため、家族と相談のやむを得ずセンサー使用の方が数名いる。現在外出傾向の強い方はいないが玄関は外部者からの安全確保上、施錠されている。</p>	

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ミーティングを実施し、虐待防止の心構えを指導している。全体会議で虐待についての研修を計画し実施している。 ・管理者は、職員の疲労やストレスの把握に都度努めている。 ・入浴時に利用者様の身体に異常ないかチェックしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修会の参加、勉強会の開催で職員に理解を深め活用できるように支援している。 ・現在、成年後見制度を利用している利用者が1名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書の内容、重要事項の説明や質問を丁寧に説明している。 ホームのケアに関する考え方や取組み及び終末、退去の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・来所時、家族会等で利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くように声掛けをしている。出された意見、要望等はミーティングで話し合い反映させている。 ・かぐらばし便りを送付時に一言メッセージを入れ利用者の近況を報告している。	家族の来訪は週1回～月1回ほどあり、遠方の方もお盆、正月と年数回ではあるが全家族の来訪がある。来訪し易い環境作りにも力を入れている。家族会は年1回、8月末の土曜日に納涼祭を兼ねて行き、スタッフ手作りの食事と家族の出し物で楽しいひと時を過ごしている。また、担当職員による利用者の様子を書き添えたメッセージを毎月発行されるお便り「かぐらばしだより」に浴え、ホームの様子と合わせお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・2か月1回の全体会議、フロア会議、月3回のケア会議、毎日の申し送り等で職員間のミーティングを行い、意見、要望を話し合いで決めている。	定期的開催される全体会議で運営全般・研修の報告、連絡、意見交換等を行い、終了後開かれるフロア会議では利用者個々のケアについて話し合い、希望に沿った支援が出来るよう取り組んでいる。人事考課制度があり考課シートを用い17項目の評価内容について自己評価、リーダーによる1次評価、管理者による最終評価等を行い、個人面談での意見や提案等を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の外部研修や資格取得に向けた支援をしている。資格取得手当を支給。 ・職員の体調管理、休憩時間の取得を推進している。 ・毎年昇給するよう賃金規則を改正した。 ・評価制度を作り年2回評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・年間研修計画を立て、外部研修に多くの職員の参加を促進し、全体会議で研修報告し研修内容を全社員で共有をしている ・2か月毎の全体会議の際にも研修を行っている。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他の施設の見学を実施し運営状況を学び、良い所は取り入れを図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・基本情報、今までの生活状況記録を家族から提出して頂き、把握している。 ・ご本人が施設の生活に慣れるよう、利用者の立場、目線に合わせて無理なく生活できるよう支援し、信頼関係の樹立に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・今までの生活状況の記録より、ご家族の考え方や意見を聞き、信頼関係の樹立を図るよう努め事業所としてどのような対応ができるか事前に話をしている。 ・来所時や電話、おたより等で現在の状況を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居時、本人、ご家族の思い、状況を把握し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築き必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、共に支え合う関係を築いている。 ・安心して和やかな生活ができるよう声掛けをしている。 ・職員が利用者の立場に立って自分だったらどうだろうと考えて接している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人とご家族との絆を深めるよう、施設の出来事がかぐらばしだより、担当の一言コメント、スナップ写真等でお知らせし理解を深めている。 ・来訪時、最近の様子を伝えご本人と家族の潤滑油となるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・若い頃の同僚など、家族以外の来訪があり、関係を継続できるよう職員が支援をしている。 ・馴染みの美容院に職員の送迎で通っている。 ・正月、お盆には外泊、又家族がホームで夕食を食べながら過ごすこともある。	高齢化に伴い来訪される知人・友人が減ってきているが、現役時代の同僚、親戚の来訪があり、気持ち良く寛げるよう支援している。利用者から家族に電話をしたり、家族と馴染みの店に外食や美容のため出掛ける方もいる。今年の年末には利用者手作りの年賀状を家族に出す予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご利用者同士の関係が円滑になるようレクリエーション等を行い親睦を深めている。 ・職員が間に入り、利用者同士が関わりあえるよう調整をしている。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめの細かい連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・毎日の関わりの中で声掛け、コミュニケーションをしっかりと取り意向把握に努めている。 ・個別に好きな事が楽しめるよう配慮し、その時間を大切にしている。	家族との連絡を密にし、お聞きした生活歴も参考にしながら空いている時間は1対1で話をし意向を汲み取るようにしている。また、介護記録に日々の様子を書き留め、申し送りで情報を共有し支援に当たっている。言葉ではっきり意思表示の出来る方は3名ほどで話の中で提案し希望を汲み取っている。他の方は見守りの中で行動を見たりボードを使い、二者択一の提案を行い意向の把握に努め支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時に提出して頂いた資料、本人との会話の中から、その人への理解を深めている。 ・職員との会話の中で極力話題になるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者一人一人の身体状況、日々の行動小さな動作を見逃さないよう職員同士が連携して感じ取り本人の全体像を把握している。 ・シフト交代時に、その日過ごし方、本人の状態を引き継ぎをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人や家族の意向を取り入れ、ケア会議は職員全員で充分話し合い、担当職員と計画作成担当者が一緒にケアプランを作成している。 ・目標の記載されたケアプラン実行表で個人別に毎日その日職員がモニタリングし職員全員が把握 ・評価は3か月毎担当職員が行いケア会議で見直しをする。	職員は1名、リーダーは2名の利用者を担当している。月3回行われるケア会議では担当者が状況を纏め全職員で1回当たり3名のモニタリングを行い、担当者がそれを纏め、ケアマネージャー及び全職員で話し合い3ヶ月に1回プランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別ファイルをし、食事、排泄、入浴等身体状況及び暮らしの状況を記録している。 ・職員の気づき利用者の状態変化は、個々ケースに記録し職員間で情報を共有している。 ・ケース記録を基に介護計画を見直し、評価している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人ご家族の要望等は臨機応変に対応している。 ・通院等、送迎が必要な場合は柔軟に対応している。(馴染みの美容室でのパーマへの送迎)		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の一環として、傾聴ボランティアの皆様が定期的に訪れ、地元の話をお話し頂いている。 ・散歩時、個人のお宅の植木や花を眺めさせて頂いている。 ・地域の催し物で利用者の作品を出品し活用させてもらっている。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医は本人、家族の希望する医師となっている。 ・ご家族面会時に、家族が付き添って併設の医院に受診して頂く利用者様もいる。 ・職員が付き添った場合は、家族にその日の内に報告している。 	医療機関に併設されているので安心感に繋がっている。ほとんどの利用者はホーム協力医である併設医院での受診対応で、基本的に面会時に家族が付き添い医師より状況を聞いている。歯科については近くの歯科の往診・受診対応で希望の時間に診察していただいている。健康管理は併設医院の看護師が行い、緊急時についても併設医院の医師の指示を仰ぎ対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職員を配置しており、職員と看護職員とが連携を取りながら支援している。 ・階下が神楽橋病院なので、医師の対応、連携がすばやくできる体制を取っている。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時には、本人への支援に関する情報を医療機関に提供している。 ・入院状況の把握に努め、都度家族、医療機関と連絡を取り合っている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時「重度化した場合における対応に関する指針」を取り交わして、医療連携体制、看取り介護を行う旨を説明している。 ・急変時における対応についての事前確認書で本人、家族の意思確認を行っている。 	重度化に対する指針があり利用契約時に説明し同意を頂いている。開設以来看取り経験は無いがその状況に至った時には家族の意向をお聞きし医師と連携を取って対応できるようにしている。緊急対応マニュアルに従い勉強会も行い、その状態になった時の心構えを確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・併設されている医院の医師が初期対応し、その指示に従って対応できるようにしている。 ・緊急応急処置や準備すべきことについて、マニュアルを作り勉強会を行っている。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成し、随時避難訓練を行っている。 ・災害に係る協力応援体制協定書を区と結んだ ・消防署の協力を得て、避難訓練、経路の確認、消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。 	春、秋の年2回防災訓練を行っている。秋には消防署員参加の下、利用者も全員参加し避難、消火、通報の訓練を行い、避難訓練では利用者を非常階段まで移動させ、合わせて防火扉、スプリンクラー、AEDの点検等も実施している。また、2ヶ月に1回はホーム独自で避難訓練を行い防災への備えとしている。区との防災協定も結ばれ、緊急避難場所等、連携を取り動けるようになっている。水、食料品等の備蓄も消費期限を確認しながら保管されている。	

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議でホームの理念の共有、また認知症状のある方の声掛け、接し方の研修を行い日々のケアで実践している。 ・契約時、個人情報保護に関する確認書を取り交わし徹底管理している。 	<p>自分の親だったらという気持ちを忘れずに明るく、丁寧に声掛けするようにしている。食事の際、各利用者に「今日の食事は如何ですか」と優しく声掛けしている職員を見ることができ、理念が実践に繋がっていることを感じた。呼び方は苗字を「さん」付けでお呼びし同姓の方がいる場合は名前でお呼びしている。プライバシー保護の勉強会を積極的に実施し支援に活かしている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に合わせて声掛けし意思表示が困難な方には表情を読み取ったりし、子細な事でも本人が決める場面をつくっている。 ・職員が決めたことを押し付けるのではなく、複数の選択肢を提案し利用者が自分で決めることが出来るようにしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>利用者毎のペースを基本にその日の体調、様子を見ながら支援している。</p>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・自立出来て利用者は着る洋服を自分で決定してもらっている。 ・本人の好み、季節を考えて対応している。 ・美容師免許を持つスタッフがおり本人の意向を聞いてカットしている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・お取り寄せ・外食を定期的に行っている ・おやつ作り(お好み焼き)等ホットプレートで利用者と一緒に作っている。 ・利用者の出来る事はお手伝いをお願いしている 	<p>全介助の方が4名ほどおり、キザミ食、トロミ食も提供している。他の方は自力でまた常食で食事が出来ている。献立、食材は配食会社のものを使い、昼食、夕食は調理専門パート職員が調理している。利用者も力量に合わせ、「洗い物」中心に参加している。お楽しみメニューとして盆、正月等には料理をプラスし、7月の丑の日には「うなぎ」というように特別メニューを楽しんでいる。また、外食レクリエーションでは「ラーメン」、「回転ずし」、「ファミレス」等に出掛け、季節に応じ桜餅や柏餅などの手作りおやつも楽しんでいる。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、個々に合わせて食事量を調整、利用者に合わせてカットし食べやすいようにしている。 ・利用者毎に摂取量の記録、水分量の足りない利用者は申し送りで飲み易い物を提供している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、自立している方は、声掛けと見守りを行い、出来ない方は職員介助でケアを行っている。 ・入歯洗浄剤は職員が管理し、衛生管理と誤飲防止を図っている。 		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に合わせて、おむつ、リハビリパンツ、布パンツと使い分けている。 ・排泄パターンを把握し、意思表示できる利用者は都度支援、意思表示が出来ない利用者は時間をみて誘導、支援をしている。 	ほとんどの利用者が一部介助で、全介助の方が4名、夜間ポータブルトイレ使用の方が5名ほどいる。トイレで排泄するよう心掛け、排泄、排便記録表を活用し、きめ細かく声掛けを行いスムーズな排泄に繋がるよう支援している。また、きめ細かく対応することで、オムツ、パットの費用削減に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄を記録、チェックし水分補給をして便秘対策に取り組み、申し送りをして排便状況確認している。 ・毎日軽い体操、廊下歩行等を行っている。 ・水分量も記録管理している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回以上入浴。 ・介助の必要な利用者は職員が介助、重度利用者は2人で介助している。 ・異性介助を拒む利用者には同性介助を行っている。 	週2回以上を基本に、3回入浴される方もいる。入浴拒否の方がいるが時間を変えお誘いし無理強いせず最低週1回は入浴できるようにしている。利用者全員が入浴時の介助を必要としており職員二人あるいは三人で介助することもある。何日かに分かれ市内の足湯に職員がお連れし楽しんでいる。季節に応じ、「菖蒲湯」、「ゆず湯」、「よもぎ湯」等も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者毎の生活リズムを整えて、同じ時間に休めるように支援をしている。 ・眠剤を飲まれる利用者は睡眠状況を把握し日中の活動の妨げになっていないか確認をしている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が利用者毎に、処方箋に基づいて朝・昼・夜等の管理袋に整理をし、服用時、利用者へ手渡し服薬の確認をしている。 ・利用者毎の薬の処方職員全員共有し、服薬時、間違いの無い様職員同士声を出して名前の確認をしている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の得意分野で力を発揮できるように、出来るお手伝いを頼み、感謝の言葉を伝えている。 ・室内飾りの製作、プランタの花づくり、公園の散歩、地域行事に参加、ドライブ、外食等気分転換を図っている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子利用者も一緒に近くの公園に出かけて外気にあたりながら近所の人と交流している。 ・月に1回以上は全員参加の行事外出を楽しんでいる。(外食、桜や紫陽花の花見、紅葉、ドライブetc) 	歩行については自立4名で、外出時は他の利用者全員が車イス対応である。外の空気に触れさせたいという職員の想い強く、天気の良い日には近くの緑ヶ丘公園までゆっくり時間をかけ散歩している。年間計画の中で2ヶ月に1回は外食に出掛け、4月には「お花見」、7月は「あじさい」、秋には「紅葉狩り」等に出掛け、お団子なども楽しんでいる。また、地域の文化祭への作品出品に合わせ見学にも出掛けている。	

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本のお金を使うことが無いが1部利用者のお金を預かり管理しており必要なときに財布を渡している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話、はがきは希望があればいつでも掛けたり、出したり出来るようにしている。 ・友人、家族からの手紙や電話は本人に伝えて意思疎通が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節ごとの飾り物を利用者と一緒に飾り付を行っている。 ・家具及び調度品は利用者が馴染めるよう、家庭的な物を取り入れている ・躓かない様足元の整理整頓に心掛けている	各ユニットの入り口には全スタッフが顔写真で紹介されている。広いリビング兼ホールでは体操をしたりテレビを見たりして寛ぐ利用者が見られた。壁には利用者が作成したぬり絵、貼り絵等の作品が多く飾られている。南向きの大きな窓からは眼下に長野市街地が望め、11月のえびす講の花火大会は利用者の楽しみの一つとなっている。3階屋上ではプランターで夏野菜を作り、また、天気の良い日にはお茶を楽しんだりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・広い空間に机、イス、ソファを配置し、いつでもテレビ、音楽が聴けるようにしている。 ・ソファでは仲の良い利用者が話をしながら、くつろげる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者の馴染みある家具、テレビを置いて自宅の延長のような雰囲気になっている。 ・季節毎担当職員が衣類の入れ替えをしている。 ・思い出の写真、絵、好きなカレンダー等を飾り居心地良い居室環境作りをしている。	整理・整頓、掃除が行き届いた各居室には大きなクローゼットが設置され十分な広さが確保されている。持ち込みは自由で、使い慣れた家具、冷蔵庫、テレビ等が置かれ、合わせて家族の写真、お位牌、職員より送られた写真入りお祝い色紙等が飾られている。そのような中で、自分の住み家としてホームでの生活を自由にのびのびと生活していることが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者の身体的状況を考え、不安・混乱材料を取り除き、自立できる生活が送れるよう必要な目印、物の配置に配慮している。		